

子供達を育てるのは誰？

子供達は誰が育てるのでしょか？学校？家庭？一部の教師は「家庭(保護者)がなっていない！」と嘆き、一部の保護者は「学校(教師)がしっかりしてない！」と罵る…こんなやり取りは不毛です。私は「地域ぐるみで子供を育てる」が正解だと考えます。私の望む施策を提案します。市川市39校の公立小学校全てで「コミュニティ・スクール」(地域住民に積極的にかかわってもらって運営の一部を担う形態の学校)を実践し、「授業等でボランティアの人達が参画する」です。

教師は、採点作業や遠足等の際、人手がなく大変です。ボランティアの人が協力してくれば心強いです。そして、教師ひとりの力だけで、40人(※来年の4月から35人)全ての勉強の理解度を把握するのは困難です。でも、教師+3人のボランティアという形で、きめ細かい授業ができれば、学力の低いコは救われます。大人と接点が増え、物怖じしない子供に育ち、質問ができる子になります。それにより「もっと学びたい！」という向上心が伸びます。子供達が安心して勉強ができる環境を作りたいです。そして、保護者や定年した方達の中には子供達のために何かしたい！という人が大勢います。成長していく子供達と接するのは楽しく生き甲斐になります。子供が楽しい。教師が助かる。大人が生き甲斐を得、活性化される。と一石三鳥です。

副次的かも知れませんが、充実したアントレプレナーシップ(起業家精神)教育、英会話授業等も行えますし、学校で大人が増える事により、イジメや暴力問題等の抑止効果も期待できそうです。結果として、自殺撲滅の一因に繋がれば。と考えています。

オチコボレを作らない楽しい授業。陰湿なイジメのない学校生活。各業界のプロが行う好奇心を刺激するプログラム。帰り道では、算数を教えてくれたお母さん先生が声をかけてくれる温かい地域。子供達にはそんな社会を生きて欲しいです。これが私の実現したい市川市です。「子供達が生き生きと過ごすにはどうすれば良いか？」話し合ってください。個々人の想いが集まっていけば、良い社会、街が形成されます。

今日も1日、素敵な日を過ごせますように。気をつけて行ってらっしゃいませ！

平成22年10月14日

増田好秀